

## 史料室のさらなる発展を祈念して

藏中さやか

2024 年、第 5 代院長 C.B.デフォレスト先生が“Beauty Becomes a College”（美は学び舎にふさわしく）という詩の中で「神の創りしものと人の作りしものは輝く全体(ひとつ)のものとなる」（原田園子氏訳）と表現した岡田山キャンパスは 90 周年を迎えました。この岡田山キャンパスはウィリアム・メレル・ヴォーリズ（William Merrell Vories）氏の設計により 17 棟が一括して建てられました。そして 2014 年には、第二次世界大戦や阪神淡路大震災を乗り越え現存する 12 棟が、重要文化財に指定されました。神戸女学院は、この大切な建物群を、遠くから眺めるものではなく、日々の教育の場として活用しています。

ヴォーリズ氏は「もしもこの建築が真に成功したとすれば、その最も重要な機能の一つは、永年の間に人々の心の内部に洗練された趣味と共に美の観念を啓発する事でなければならない」という言葉を残しています。神戸女学院の学び舎が生徒・学生の心に育んだものは、「今すぐ」だけではなく、永年、すなわち生涯を通しての財産になる、神戸女学院で育んだものは生涯、心の内に宿る財産になる。わたしはこの言葉をそのように解釈しています。神戸女学院の教育の営みは、在学生の人生においても、学院の歴史においても「今」を大切にすることはもちろんですが、先を見通し、次代へと繋ぐものであると日々感じています。

この神戸女学院の礎がどのように築かれ、継承されてきたのかを考えると、わたしたちは総説と各論からなる『神戸女学院百年史』を参照しつつ、創立者である二人の女性宣教師の信念と行動を、また人々に支えられ発展してきた学院の道程を知ることになります。同書は百年間の学院の歴史を今に伝え、建学

の精神や苦難の歴史、その中でも屈することなく続いてきた歩みを取りまとめています。

この『百年史』はそれ以前の学院史を振り返る刊行物の集大成でもありました<sup>①</sup>。

単行された初めての学院史は創立 25 周年の際に配布された『神戸女学院略史』で、その後、40 周年にめぐみ別冊『私立神戸女学院沿革史』、50 周年に『神戸女学院史』が刊行されました。75 周年を記念して 1950 年にデフォレスト先生がまとめた英文の“The History of Kobe College”は、1934 年の岡田山キャンパス落成式の際に先生が編集した『神戸女学院新築記念帖』（1984 年に神戸女学院記念帖委員会編『岡田山の五十年』に再録）とともに、2023 年の「C.B.デフォレスト展—愛と美を求めて—」（於、神戸女学院図書館本館）に出展しました。その後 1955 年に刊行された『神戸女学院八十年史』は、「あとがき」（和島芳男先生執筆）に「解釈なき史料の配列は単なる年代記であって歴史書ということはできない」と記されるように、歴史家のまなざしにより編まれたもので、続く『百年史』の基盤となる内容を備えています。またこれらの学院史とともに、『神戸女学院 千八百七十五年—千九百二十五年』（1925 年）、『神戸女学院 その歴史を描く 明治八年—昭和二十五年』（1950 年）、『神戸女学院・目で見る百年 Kobe College 1875—1975』（1975 年）の三冊の写真集が編まれています。

なお岡田山の建築物に特化した形で 2013 年に出版された神戸女学院岡田山学舎建築歴史調査委員会編『神戸女学院岡田山学舎の建築 歴史調査報告書』、同編『神戸女学院岡田山キャンパス—ヴォーリズ建築の魅力とメッセージ』は、年史とは異なる視点から岡田山キャンパスの歴史を紡ぎ出した刊行物です。

『百年史』刊行以降の学院史を知るためには史料室の機関誌である本『学院史料』が大いに参考となります。史料室は、1970 年から始まった『百年史』編纂等のための史料整備の仕事にかかわって、1972 年に設置されました。1989 年には「史料室規程」が定められ、以後、史料室専門委員会、史料室運営委員会が開催されてきました<sup>②</sup>。その後、組織再編により 2005 年度から史料室は図書館の一部として運営される形になっています。本誌はもともと年史編纂にかか

わって刊行されることになったもので、この先に編まれるであろう百五十年史、二百年史のためにと 1983 年 3 月創刊されました。なお時代の流れを受け、今号より『学院史料』はウェブジャーナルとして刊行することになりますが、新たな読者層の獲得に繋がるものと期待しています。

以上、150 周年を迎えるにあたり、『百年史』までの年史刊行をふりかえりました。これらを受け継ぐものとして飯 謙院長のもとで、『神戸女学院百五十年史』の編纂が進められていることは、その経緯とともに飯院長が本誌第 30 号、37 号巻頭言などにより広く案内されてきた通りです。先行して写真を中心にした一冊が、その後、『百年史』に続く学院の歴史を綴る書が刊行される予定です。また、2025 年 3 月に史料室ホームページが新たに開設、公開されたこともご報告いたします。

この 150 周年という節目の年に、神戸女学院に関する文書的諸史料の収集、整理、管理を主業務とする史料室は、図書館とともに学校法人神戸学院が所蔵する資料のデジタルアーカイブ化の実務も担うことになりました。資料は、過去の歴史的事実を、現在に、そして未来に伝えるものであり、専門的知見を備えた者の適切な整理を経て、社会に公開することが求められます。2015～18、21～24 年度の通算 8 年間にわたり図書館長として史料室の業務にかかわった立場から、神戸女学院の歴史を発信する拠点である史料室が、今後も学内外の多くの方々に有用な情報を提供し続け、その活動が一層広がりゆくことを心から願っています。

## 註

① 若山晴子「『神戸女学院史』の歴史」（『学院史料』第 18 号 2002 年 10 月）参照。

② 山内祥史「史料室を担当するに際して」（『学院史料』第 8 号 1990 年 3 月）参照。

（大学図書館（史料室）長）